

### 37 Tl-201 SPECTによる放射線治療肺癌の残存度評価；X線CTおよび生存期間との比較

清水正司、瀬戸 光、藤山昌成、呉 翼偉、永吉俊朗、森尻 実、渡辺直人、柿下正雄（富山医薬大 放）

StageIII以下の原発性肺癌患者14例を対象とし、放射線治療前後にTl-201 SPECTおよびX線CTを施行し、腫瘍摂取率および腫瘍体積を算出した。また治療終了後、生存期間を調査した。CR群とPR+NC群の治療治療前の摂取率には有意差はなかったが、治療後の摂取率は $5.3 \pm 6.0\%$ と $52.0 \pm 27.4\%$ で有意差 ( $p < 0.01$ ) を認めた。また生存期間1年6か月以上 (LS) 群と1年6か月未満 (SS) 群では治療前後の体積には有意差はなかったが、治療前後の摂取率はそれぞれ $77.4 \pm 19.5\%$ と $126.6 \pm 34.4\%$

( $p < 0.01$ )、 $17.0 \pm 14.4\%$ と $53.6 \pm 33.4\%$  ( $p < 0.05$ ) で有意差を認めた。Tl-201 SPECTは放射線治療肺癌の残存度評価および予後の推測にも有用であると考えられた。